解答例

問 1

図 1 によれば、日本の原油の輸入は、アラブ首長国連邦・サウジアラビア・クウェート・カタール・オマーンといった中東諸国からの割合が合計で 9 割を超えている。中東地域において事故や紛争などのトラブルが発生すれば、石油の確保に大きな支障がもたらされるかもしれない。そのような状況を想定して石油の備蓄が行われるものと考えられる。一方、図 2 によれば、2025 年の間、日本の石油備蓄日数は 250 日程度で推移してきた。その内訳は約 150 日が国家備蓄、約 100 日が民間備蓄で、残りが産油国共同備蓄である。ところが 2026 年に入ると、2 月から 3 月にかけて民間備蓄が約 20 日分程度減少し、4 月には国家備蓄も約 20 日分程度減少している。これは中東の情勢によって石油の輸入に支障が生じ、備蓄が放出されたものと考えられる。石油は私たちの生活を支える大事な資源であるため、今後も状況の注視が必要である。

問 2

働き手の確保以外の解決策として、打つ手は大きく分けて二つの方向が考えられる。一人が運べる量を増やすことと、運ぶ量そのものを減らすことである。前者は、具体的にはトラックの荷台の空きを埋めることだ。同じ日に同じマンションへ、別々の会社のトラックが何台も来る。これを一台にまとめれば、同じ人数でより多くを運べる。ただしそれには競合する業者同士が協力する必要がある。後者は受け取る側の問題だ。再配達をなくし、翌日配送や送料無料を当たり前としない。ただしこれは利便性を手放さねばならず、負担を誰が引き受けるかを決めるのが難しい。

ドローンによる配達や自動運転にも期待が集まるが、今なお実験の段階にあり、実用化されてから全国に行き渡るまでにはさらに年月がかかる。不足はその前に訪れる。技術を待つのではなく、荷物を一台にまとめる仕組みと、消費者が速さと安さを少し諦めることの両輪で臨むほかないだろう。

問 1

（ポイント）

- 図 1 から、中東からの輸入が大半を占めていることを読み取っているか。
- 中東におけるトラブルが、日本の石油の確保に支障をもたらし得ることに言及できているか。
- 図 2 における傾向（2025 年は安定、2026 年は減少）を読み取っているか。
- 2026 年の減少傾向について、中東情勢との関係を示唆できるか。

（出題意図）

出題された図から読み取れることを、正確に過不足なく説明できるかどうかを問うている。

問 2

（キーワード）

効率化、積載率、再配達、ドローン、自動運転

（出題意図）

社会情勢に関するトピックに関する自分の意見を、指示に従って明快に説明できるかどうかを問うている。